

かかしこい子  
たたくましい子  
しんせつな子  
まじめな子

# しののめ

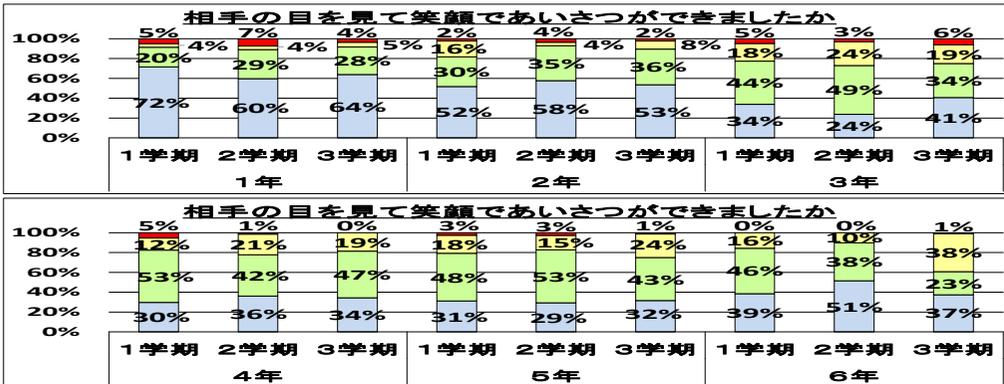
飯塚市立片島小学校  
学校通信 3月(号外)  
校長 井上 真一  
令和3年3月10日発行

## 《一年間の「凡事徹底」の取組を振り返る！》

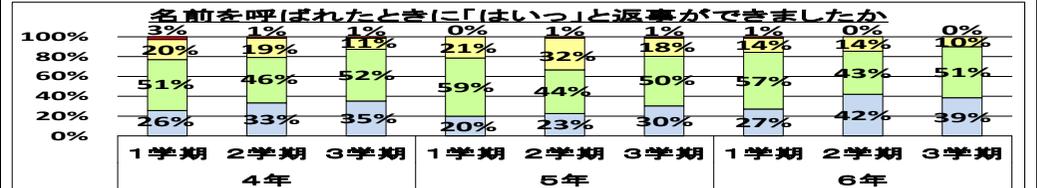
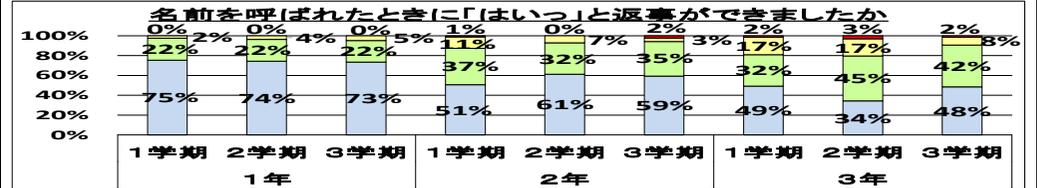
子どもたちには、3学期の「凡事徹底」の取組をアンケート形式で振り返ってもらいました。その集計結果をご紹介します。一年間を通した子どもたちの意識の変化がわかるように、1学期と2学期の集計結果も掲載しています。

アンケートでは、「新しい学年では、どのように生活しようと思いますか？」という記述式の質問を設定しました。子どもたちの回答をすべて読み、気づいたことが2つありました。1つ目は、ほぼすべての子どもたちに意識の高まりが見られたことです。高学年の子どもたちは当然のことかもしれませんが、中学年及び低学年の子どもたちも、できたこととできなかったことをしっかり分析し、次に頑張ることまで記述することができていました。2つ目は、4段階で回答する7つの質問に対して、子どもたち自身の評価基準が上がっていることです。評価基準上昇の要因は、学期ごとに振り返りを行って内省をしていますので、もっとできるようになろうとする意識の高まりが出てきているからだと考えます。

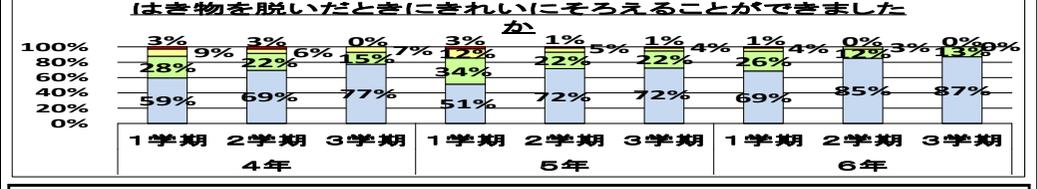
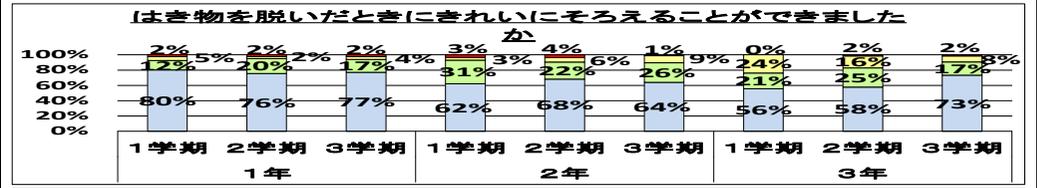
(凡例 ■ よくできた ■ だいたいできた ■ あまりできなかった ■ まったくできなかった)  
(※各グラフの割合(%)は、小数点以下を四捨五入していますので、合計が100%になっていないものもあります。)



「あいさつ」については、1年生から3年生は、ほぼ変化が見られません。5年生と6年生は、「できなかった」と考えている児童が増えました。本年度、片島小学校のあいさつの状況は、「あいさつ いっぱい！」と言える状況ではありませんでした。子どもたちは、教師やお客様に対してのあいさつはよくできていますが、子どもたち同士のあいさつが飛び交うまでには至っていません。現在、児童会が中心となり、朝のあいさつ運動を下足置き場付近で行っています。これが、『自治(自分たちにできることは自分たちでやること)』です。この自治の意識は、他の取組へと発展していくことでしょう。

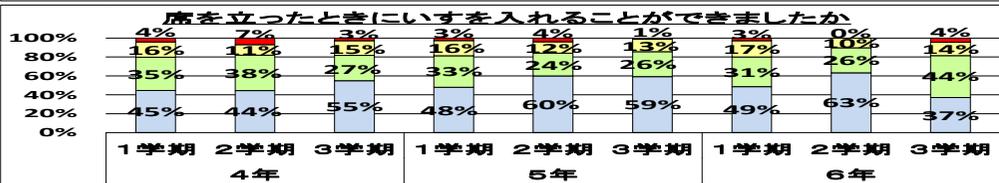
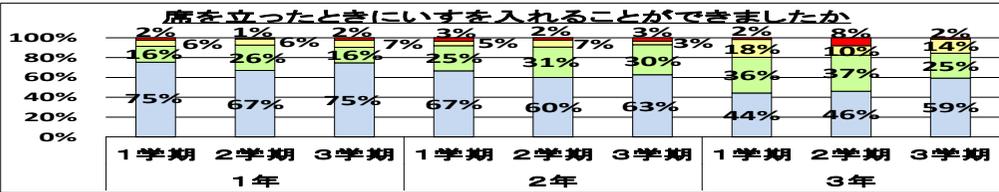


「返事」については、1年生と2年生は、ほぼ変化が見られません。3年生から6年生は、「できた」と感じた児童が若干増えました。「返事」に対する意識を読み取る場として全校集会があります。本年度、体育館に全校児童が集まったのは、3回(2学期終業式、3学期始業式、2月の全校集会)でした。まだ、個々の意識の差はあるものの、徐々に気持ちの良い「はいっ!」という返事の声が大きくなっています。本校では、返事をするときは最後に小さい「っ」をつけるように指導しています。今後のさらなるレベルアップを期待しています。

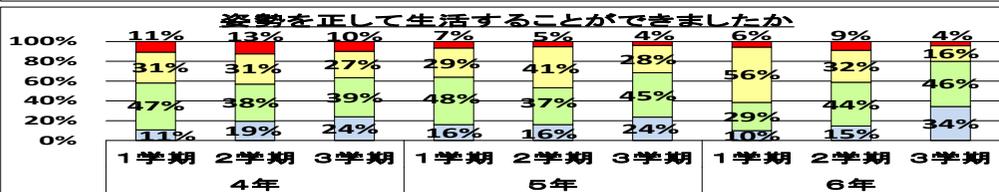
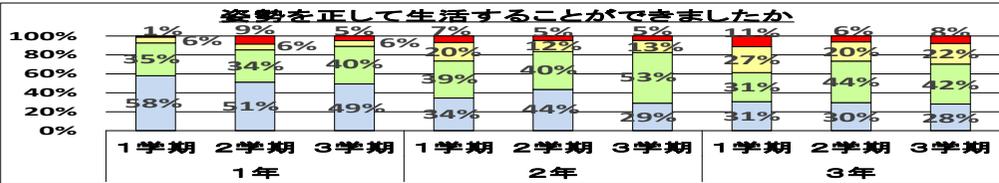


「はき物をそろえる」については、児童会環境委員会の「靴箱点検」の取組もあり、どの学年もかなり意識が高まっています。特に1年生は、靴箱点検の取組を頑張り続ける決意をしている児童が多くいましたので、「気づく力」のレベルがかなり上昇していることでしょう。片島小学校の靴箱は、子どもたちの評価基準がかなり高くなっていますので、いつ見てもきれいに靴が揃っている状況です。脱いだ履き物をきれいにそろえることは、「人間修行の第一歩」と考えていますので、この状況は素晴らしいことです。

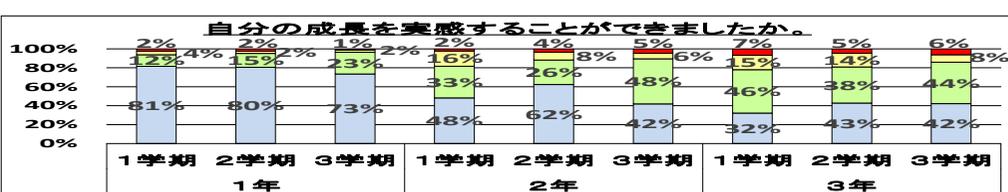
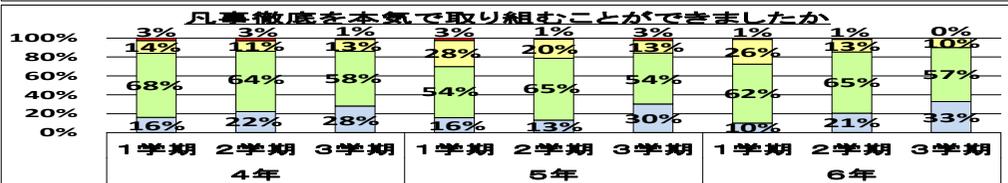
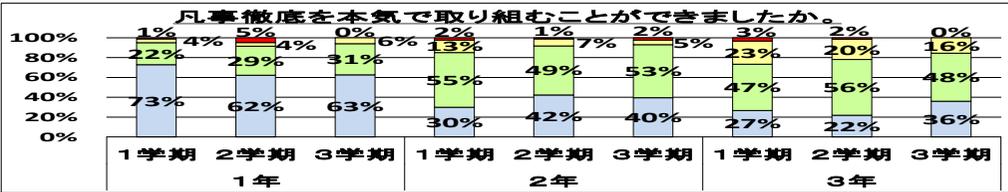
裏面には、残り4項目の集計結果と「次年度に向けて子どもたちに期待すること」を掲載しています。



「いすを入れる」については、1年生から5年生は、2学期よりも「できた」と回答した児童が若干増えました。6年生は、2学期よりも意識が下降気味の結果となりました。しかし、冒頭でも触れましたように、子どもたちの記述式の回答からは、どの児童も凡事徹底の取組に対する意識が高まっていることがうかがえますので、評価基準がかなり上昇していると考えています。記述式の回答からは、もっと上をめざして取り組む決意をしている児童が多くいたことから、次年度は、移動教室の際に、どの学級の教室内を覗いても、全員の机（いすが机に収められている状態）が整然と並べられていることを確信しています。楽しみにしています。



「姿勢を正す」については、下学年（1年生、2年生、3年生）は、ほぼ変化が見られません。上学年（4年生、5年生、6年生）は、意識が上昇気味の結果となりました。特に、6年生の伸びが著しくなっています。本年度は、体育の授業の最初に行う「片小5（ファイブ）」で、体幹を鍛えるプログラムを入れて姿勢を正しく保つ習慣を身につけるように計画をしておりましたが、新型コロナウイルス感染予防のため、思うように実施できませんでした。次年度は、感染状況を見極めながら「片小5」を実施できればと考えています。凡事徹底の取組に対する意識の高揚は見られているので、体力的な素地さえ身につけていけば、きっと「よくできた！」と胸を張って回答できる子どもが増えてくると思います。



### 《次年度に向けて子どもたちに期待すること》

2月の全校集会では、子どもたちに次のような話をしました。



今日の全校集会は、児童会役員の新旧交代式でした。児童会活動の目標は、「自治」（自分たちでできることは自分たちでやること）です。そして、児童会は、ここにいる皆さん一人一人が児童会メンバーです。だから、皆さんは、様々な活動を通して、自分たちでできることは自分たちでやるように心がけて生活をしなければなりません。4月から、より高いレベルでスタートが切れるように、自治の意識をしっかり持って、残りの3学期の生活を送っていきましょう！

全校集会後には、5年生と6年生に次のような話をしました。

5年生には、リーダーとしての「自覚」と「責任」を持って欲しいと思っています。具体的には、<sup>そつせんすい</sup>率先垂範（自ら先頭に立って模範を示すこと）を心がけることです。皆さん一人一人が「自覚」と「責任」をもって「率先垂範」を行えば、もっと心のレベルアップを図ることができます。そして、全校のみなが、楽しく充実した学校生活を送ることができるようになるでしょう。

6年生は、4月から新しい環境で生活することになります。大きく生活環境が変わると、とても不安だと思います。そのようなときは、「積小為大」（小さな努力の積み重ねが、大きな成功へと繋がること）を心がけて生活することです。つまり、目の前の一つ一つを着実に実行することです。そうすれば、見通しを立てることができるようになります。皆さんならきっとやれるはずですよ。